第31回 五霞町青少年の主張大会

11月28日、中央公民館講堂において、第31回五霞町青少年の主張大会が開催されました。町長を始め町議会議員、教育委員、民生委員児童委員を来賓に迎え、小学生4名、中学生5名の合計9名の代表者による主張発表がおこなわれました。代表者は、自身の日頃の考えや思い、将来の夢、メッセージなどを力強く発表しました。当日は、小中学校にライブ配信され、各校で代表者の堂々とした主張発表を視聴しました。

【受賞者名】（敬称略）

○最優秀賞（小学生の部）

「本で広がる自分の世界」
五霞小学校6年　小河原花苗（おがわらかなえ）

○最優秀賞（中学生の部）

「災害の経験から未来へ」
五霞中学校2年　島田アリス（しまだ）

○優秀賞

「生き物が住みやすい環境をつくるために」
五霞小学校5年　小畠蒼士（こばたけあおし）

「人と人のつながりが未来を照らす」
五霞小学校6年　島田樹（しまだいつき）

「テニスが教えてくれたこと」
五霞中学校1年　小畠楓（こばたけかえで）

「私の夢」
五霞中学校2年　木村花菜（きむらはな）

「地域のヒーローになりたい」
五霞中学校3年　藤城匠（ふじしろなる）

「未来のための今の成長」
五霞中学校3年　青木れおな（あおきれおな）

小河原花苗（おがわらかなえ）さん

島田（しまだ）アリスさん

本で広がる自分の世界

五霞小学校　6年　小河原花苗

あなたにとって、思い出の本や大切な本はありますか。私は本が大好きです。私が小学生になってから読んだ本は、二千冊を超えています。そんな私にとって本とは、私の世界そのものです。

しかし、最近本を読む人たちが減っています。文化庁による調査では、一カ月に読む本の冊数について、一冊も読まないと回答した人は、二〇〇八年では約四割であったのに対し、二〇二三年では、約六割を超えているという結果が出ました。本が大好きな私にとってこの結果はとても悲しく、もっと多くの人たちに本の魅力を知って欲しいと思いました。そこで、私はどうすれば本の魅力を多くの人に知ってもらえるのか、二つ考えてみました。

一つは、環境を整えること、つまり、電子書籍です。スマートフォンやタブレットが多く普及したことで、本への関心が薄れてしまったと感じます。それならば、その端末で本を読むことができればよいと思いました。五霞町では、令和五年十二月に全国初の完全オンライン電子図書館サービスを開館しています。電子書籍を購入することなく借りることができれば、本を身近に感じることができます。たくさんの人にこのようなサービスがあることを周知することができれば、本を読む人がきっと増えると思います。

「島崎、私はこの夏を西武に捧げようと思う。」下校中に成瀬がまた変なことを言い出す。ひと月後に閉店する西武デパートのために、成瀬は西武ライオンズのユニフォームを着て夏休みの毎日を西武デパートに通うことを決心した。島崎と成瀬の関係は？ユニフォームを着てデパートへ通う成瀬の正体とは？みなさんはきっとそんなことを考えませんでしたか。これは、『成瀬は天下を取りに行く』という本の冒頭です。主人公の成瀬は、周囲から見れば変わった女の子です。しかし、成瀬の自分を曲げずに挑戦し続ける姿に、多くの人が心を動かされます。そして、私たち読者もその一人になります。そして、成瀬のようになりたいと誰もが思うようになります。私は周囲の言葉に流され、諦めてしまいがちでしたが、この本と出会い、自分の信じた道を突き進みたいと思うようになりました。今、この場に立っているのは、この本のおかげです。今のスピーチは「ビブリオバトル」というものです。これは、本を紹介し合い、より読みたいと思わせた方が勝者となるというもので、大会まであります。このような人と人とが本の魅力を伝え合う活動を広めることが、本の魅力を知ってもらうためのもう一つの理由です。

本とは自分の可能性を広げてくれる新しい世界そのものです。あなたにとっての一冊を見つけてみませんか。あなたにとっての大切な一冊が見つかることを願っています。